

鶴岡アートフォーラム  
市民交流プログラム

「もしもの森 メディア・アートと影絵の現在」

会場：鶴岡アートフォーラム

会期：2008(平成20)年4月26日(土)～5月25日(日)  
27日間

この度、鶴岡アートフォーラムでは、市民交流プログラム「もしもの森 メディア・アートと影絵の現在」展を開催します。

影絵の歴史は古く、ジャワの影絵人形、東洋の回り灯籠、西洋の影絵芝居のように、古今東西で親しまれてきた表現のひとつです。

近森基++久納鏡子 (minim++/plaplast) は、“影”をモチーフとしたインタラクティブ作品(観客参加型作品)など最新テクノロジーを取り入れながらも親しみやすい表現で国内外から高く評価されています。

本展では、昨夏に当館で開催した影絵ワークショップ「ミニムプラプラとつくる“おちつきのない影たち”」で参加者とアーティストとのコラボレーションによる作品制作を通して、普段とは違った視点から作品を捉える機会が実現しました。

その成果は、近森基++久納鏡子 (minim++/plaplast) によって仕上げられた作品「Tool's Life<made in tsuruoka>」(注1)として初公開されます。

また、本展会期中にも新たなワークショップを計画しています。

【市民交流プログラム】

鶴岡アートフォーラムでは、作品展示という従来の展覧会形式にとどまらず、市民とアーティストとの交流を通じて作品世界の理解を深め、さまざまな芸術表現に親しむ機会をつくることを目的とした普及企画 市民交流プログラムを行っています。

(お問い合わせ)

鶴岡アートフォーラム

997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3

T/0235-29-0260 F/0235-22-6051

E-mail/info@t-artforum.net

HP/http://www.t-artforum.net

主催：鶴岡アートフォーラム／鶴岡市教育委員会

後援：山形県／朝日新聞山形総局／河北新報山形総局  
／荘内日報社／毎日新聞山形支局／山形新聞／  
読売新聞山形支局／NHK 山形放送局／  
さくらんぼテレビ／テレビユー山形／山形テレビ  
／山形放送／エフエム山形

企画：鶴岡アートフォーラム／山形美術館

●展覧会

市民交流プログラム

「もしもの森 メディア・アートと影絵の現在」展

【会期】2008年4月26日(土)～5月25日(日)

月曜休館

\*ただし5月5日(月・祝日)は開館

【場所】鶴岡アートフォーラム ギャラリー2

【時間】10:00～19:00(入場は18:30まで)

【観覧料】一般500(400)円／高大生300(240)円

\*中学生以下無料

\* ( ) 内は20名以上の団体料金

【アーティスト】近森基++久納鏡子

(ちかもり・もとし ぶらぶら くのうち・きょうこ)

近森基と久納鏡子の二人組みによるメディア・プロダクト・アーティスト

【内容】

近森基++久納鏡子 (minim++/plaplast) の体験型映像作品約10点を展示。このなかにはアーティストと鶴岡市民との共同制作「Tool's Life<made in tsuruoka>」(注1)も含まれます。

●ワークショップ

「江戸時代の鶴岡を歩こう」

【日時】4月26日(土)10時～16時(休憩1時間)

【対象】小学生+保護者

【定員】15組

(1組につき小学生2名まで、保護者2名まで)

【料金】保護者1人につき500円

【申し込み】4月8日(火)より電話(29-0260)または窓口受付(時間9:30～19:00)

【内容】展覧会場に、鶴ヶ岡城周辺地図(江戸時代)と航空写真(現代の鶴岡市)を組み合わせた映像作品「at<case tsuruoka>」(注2)が展示されます。床に投影された航空写真の上を歩くと、足下に同じ位置の昔の地図が表れるという作品です。

ワークショップでは、参加者が江戸時代の地図を見ながら、現在の道を実際に歩きます。また、町の歴史に詳しいガイドさんも同行し、当時の様子や変化について解説します。その体験がアーティストによって最新の影絵と合流し、不思議な影絵作品となります。その後、作品と展覧会場をみんなで鑑賞します。

●ギャラリー・ツアー

「もしもの森を散策しよう」

【日時】会期中の土曜日、日曜日、GW期間(4月29日～5月7日)の各14:00から

【参加】申込不要、直接会場へ(要観覧券)

\*展覧会初日の4月26日(土)に限り、アーティストによるツアーを行いません。

【内容】もしもの森の中は不思議なことがいっぱいです。この森での過ごし方(楽しみ方)をわかり易くご案内します。

(注1)

写真左上下、昨年夏の影絵ワークショップ(会場:鶴岡アートフォーラム)で共同制作した「Tool's Life<made in tsuruoka>」2008が会場に展示されます。

卓上のオブジェに触れるとその影が動き出すという、アニメーション手法を取り入れた観客参加型の立体作品。1997年に第1回文化庁メディア芸術祭で大賞を受賞した作品の系譜となる代表作のひとつ。

\*写真は「Tool's Life~道具の隠れた正体」2001



(注2)

写真右下、ワークショップで使用する作品「at<case tsuruoka>」。

床に投影された現代の鶴岡に足を踏み入れると、その位置に江戸時代の鶴岡の地図が浮かび上がる。

\*写真は東京バージョンの作品「at<case edo-tokyou>」2003



---

## ●アーティストプロフィール

### 近森基十+久納鏡子

(ちかもり・もとし ぷらぷら くろう・きょうこ)

近森基氏と久納鏡子氏により構成される二人組みのアーティスト。minim++ (みにむぷらぷら)、plaplast (ぷらぷらつくす) 名義でも活動中。

日常の何気ないモノや現象に“ほんのひと工夫ふた工夫プラスして世の中に発信していこうとする”をコンセプトに、現代の映像技術を用いながら、“影”をモチーフに親しみやすい表現で国内外から高く評価されている。また、作品発表のほか公共空間やイベントなどの空間演出、プロダクトデザイン、大学との共同技術開発など幅広く活動している。

第1回文化庁メディア芸術祭 大賞受賞 (1997/日)、「Ars Electronica In Touch」(1997、2003-04/奥)、「映像体験ミュージアム」(2002/日)、「Ombre et Lumière」(2005/仏)、愛知万博 (2005/日) など世界各地で出展多数。

---